

今号のわだい

- 【1面】16年原水爆禁止世界大会
- 【2面】労働学校「厚生連の歴史」
- 【3面】秋田・鹿角住民のつどい世界大会に参加して

全厚労ニュース

全国労働組合連合会
厚生連
〒110- 東京都台東区入谷
0013 1-9-5
TEL 03-3874-3591
FAX 03-3874-3593
発行日 毎月20日 定価 30円
http://www.zenkouro.org/

核兵器のない世界へ歩みだす

いまも1万5000発以上、国際条約で禁止へ

原爆投下から71年目となる今年も「核兵器のない平和で公正な世界を」をテーマに原水爆禁止世界大会が広島で開催されました。開会総会は、平和祈念公園・原爆ドームに近い広島県立体育館で行なわれ、約4500人が集結。全厚労からも10県54名が参加しました。

4日の開会総会で全厚連・小田川議長は、「国連で核兵器のない世界を実現するための『具体的で効果的な法規制措置』を議論する作業部会がジュネーブで開かれ、核兵器を禁止・廃絶する条約が秋の国連総会にも提出される」と報告。「こうした流れを生み出したのは核兵器の非人道性、残酷さを訴え続けてきたヒバクシャと、世界の『反核平和』運動の力によるもの。ヒバクシャ国際署名を呼び

世界と連帯し核廃絶へ

16歳のときに被爆し、原爆孤児となった岩佐幹三さんは「第1回世界大会のとき、平和公園で会場に入りきれない沢山の人達と共に聞いていました。大会も61回を迎え『ふたたびヒバクシャをつくるな』の思いをこめて国際署名を呼び



広島・平和祈念公園・原爆の子の像にて

かけ、国内外に広げられることを求めます」と訴えられました。ベトナム平和委員会のブイリエンフォン事務長が「核兵器廃絶は被爆者だけの願いではない。世界の良識ある人たちの願いです」と発言し、ベ

トナムで集めた8万筆の署名目録を岩佐さんと被爆者代表に手渡すと会場は大きな拍手で包まれました。

核兵器はいまも世界に1万5千発以上存在しています。ベトナムで使用された枯葉剤など多くの生物・化学兵器は国際条約で禁止されています。被爆70年を転換点とし、核兵器も国際条約で禁止・廃絶されるよう「ヒバクシャ国際署名」を広げていきましょう。

「戦争と看護」

従軍看護婦に聞く

2日目は分科会ごとに行動し、夕方に医労連産別交流会で合流しました。学習会では広島赤十字原爆病院で看護師をされている三上文子さんが講演。「看護師も戦地に行くのか」という疑問から当時



学習会にて日赤看護師の三上さん

の従軍看護婦に聞き取りを行なった内容が話されました。三上さんが聞き取りを行なったのは広島出身で従軍看護婦だった石田寿美恵さん（96歳）。聞き取りのなかで石田さんは、戦地での看護について「18歳の少年兵が運び込まれ憔悴した姿はおじいさんの様だった。看護を続けるうちに元気になって、回復した姿は美少年に。みんな『良かった良かった』と喜んだが、次の日には前線に戻っていった。私たちの看護は何だったのかと今でも思う」と話されました。また「安本法制が強行採決された今の状況をどう思うか？」という質問に石田さんは「今の日本は戦争が始まる前の日本によく似ている」、「憲法9条を守るしかない」と強調されたそうです。三上さんは看護師として、また労働組合の仲間として「従軍看護婦だった石田さんは96歳の今でも自分の看護実践をふり返っている。良い看護がしたい、良い職場にしたい、その要求を仲間で作るのが組合活動。いのちを守るということは戦争だけはしたくないという事です」と話し、署名行動など積極的な運動を呼びかけられました。

2016年秋・集会のお知らせ

第30回幹部・看護師集会

10月7日(金) 13時半～8日(土) 12時
三重県・鳥羽シーサイドホテル

集会テーマ 「私らしく働き、私らしく生きるために！」

記念講演 「私たちがつくる看護の未来 看護の喜びをつかむ(仮)」
川嶋みどりさん (赤十字看護大学名誉教授)

参加費 24,000円



鳥羽湾に並ぶ三ツ島

K's station in 埼玉

10月21日(金) 13時～23日(日) 12時
埼玉県・ラフレさいたま(さいたま新都心)

集会 スローガン

- ①職場・地域・年齢の隔たりに超えた本音で語り合える仲間を作ります
- ②青年らしく楽しんで、元気を職場に持ち帰ります
- ③K's stationを通して、組合活動と平和の大切さを学びます

内容

- 班別交流・クイズ大会・夜祭り・学習会など
- 体験ツアー①川越ガラス工房体験・鉄道博物館など
- ②長瀬ラフティング・BBQ・平和記念資料館など

参加費 39,800円

※別途ツアー費用



川越の街にそびえる「時の鐘」

いのちまもる国民集会

10月20日(木) 13時～
東京・日比谷野外音楽堂
集会後、銀座パレード

※午前中に全厚労秋闘決起集会を予定

第33回医療研究集会

11月18日(金) 13時半～20日(日) 12時
埼玉県・マロウドイン熊谷

メインテーマ 「住民とともに協同組合医療運動を復興させよう」
サブテーマ 「あらためて厚生連病院の意味を考える」

内容 学習講演 病院M&Aとその背景にあるもの
長友薫輝氏(三重短期大学教授)

- 分科会
- 第1「地域とのかかわり」
 - 第2「わかりあうために」
 - 第3「病院を地域にひらく」
 - 第4「いのちを育む食と環境」

参加費 38,000円

労働学校第3講義

医療社会化運動と協同組合医療

—農山村地域と厚生連病院—



岡部義秀氏

先月号に続き労働学校の講義を紹介します。第二講義では岡部義秀副執行委員長から「医療社会化運動の母体たる役割を果たしてきた厚生連の歴史」を学びました。講義は、「厚生連協同組合医療を『医療の社会化運動』として位置づけ、戦前を四期、戦後を一期として明治から戦後初期までの歴史を『医療の社会化』に焦点をあてて概観する」とした内容です。とても難しい内容ですが、へき地・山間地の医療を担う厚生連医療の原点を知る大変有意義な時間となりました。

てや農民には手が届かず、農村の貧窮によって開業医は都市に移住し、農村は圧倒的に無医村に置かれていたことを言っており、「医療の社会的偏在」を解消していくことを指していた。また二つ目として、国民大衆にとって開業医に支払う医療費負担が過酷なものであったので、その重圧を軽減する運動であった。国としても富国強兵のための兵力と生産力としての国民の体力の増強のため、医療の社会化を主張していた。上からの動きを「医療の社会化」、下からの動きを「医療の社会化運動」と呼ぶ二つがあったことになり

第一期 前史

(明治39年から大正6年まで)

「医療の社会化」とは、当時の日本の医療が開業医制のために依存し、その営利主義のために一般大衆や、まし



戦後すぐの農村風景（農村医療の原点より）

川水の利用
山の子供達は良く働く。鍋、釜、野菜、農機具などをひっさげて、あちこちから小川の淵に集まってくる。大人も負けない程の流物……何も彼も皆洗ふ。“此の水谷めるの？”と聞けば、はっきり“うん”と答へて私達を苦笑させる。

1910 (明43)年、明治天皇が貧困者救済救済施設を50万円を下賜し、恩賜済生会が設立された。この年は上

からの慈善ではなく下からの運動として鈴木梅四郎(王子製紙専務取締役)と加藤時次郎(外科医)らによって東京の京橋に医療費低廉化のための実費診療所が設立された年でもある。これは済生会と違いすでに社会に沈殿してしまつた者にはなく、中等階級の下層に属する貧民のこれからの「防貧」を目的とする、と述べている。鈴木らの実費診療所は開業医の協定料金の4分の1で診療した。全国的に広まったのは大正4〜5年の頃である。

第二期

米騒動と健康保険法 (大正7年〜昭和5年)

シベリア出兵後の米騒動の勃発。さらに翌1917年のロシア革命の成功と、その後のソ連社会主義の発展がわが国労働者の先進部に強い影響を与えるに至つた。

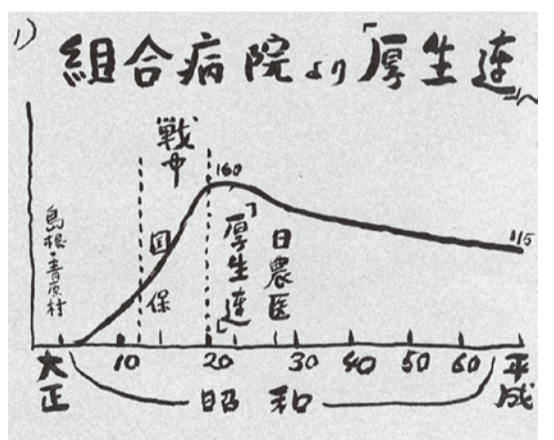
こうした背景のもと、政府は上から弾圧を続ける一方、人民の不満の解決策として社会事業に積極的になり出し、1927(昭2)年には健康保険法が実施された。しかしこれは済生会による慈善主義ともまた実費診療主義ともまた異なる「生産力保持」という

国家目的を先頭に掲げた強制的相互保険による上からの医療の社会化であった。実費診療所は医療費の低廉化を求める医療社会化運動であったため、健康保険は実費診療の肩代わりとなつた。そのため大きく影響を受け衰退したのだ。

一方、この年には東京の大崎に「プロレタリア医療制度確立」という要求を掲げ、徹底した医療の社会化を目指した運動による無産者診療所ができたことも重要である。しかし、3年後には弾圧によって閉鎖されてしまう。これについて弁護士の本堂義明は、「プロレタリア医療制度確立」というスローガンを掲げるのは誤謬であり、「進歩したる医療を各人に均霑せしめよ」という要望で起こつたところの一つの民主主義的な活動である」とし、社会主義者や労働・農民運動の弾圧された者である「労農救済会の活動として行われるようになって却って大衆化が著しく阻害された」と述べている。医療社会化運動は、経済民主主義的な要求として広範な支持を得られる運動であつて、そこに狭い政治的スローガンを前面に掲げるべきでないとする正しい批判である。

28(昭3)年に「東青信用購買利用組合」が作られた。従来型とは異なり、医療事業のみを単営で行ない、かつ広区域を特徴とする新しい医療利用組合であった。しかし、新しい発想の東青病院も、やはり小規模のゆえにまもなく経営困難に陥

つてしまふ。そこで岡本組合長は私財を投げ打つて次なる大規模病院の設立に踏み切る。三つの病棟、分院と診療所も擁する総合病院を開院し、1933(昭8)年度には創立当初からの赤字を完全に填補し、経営も安定、県下第一の病院として名を馳せることになつた。総合病院の設立は、「組合員の疾病は組合病院だけで安心して治療し得る」との権威になつていく。これ以後は、いわゆる「組合病院」と称されるのは総合病院を指すこととなる。



若月先生が示した厚生連病院数の図

第三期

産業組合による医療利用組合の興隆 (昭和6年〜12年)

医療利用組合の発端は、1919(大8)年に島根県鹿足郡青原(せいほら)村に創立された「青原信用購買販売利用組合」である。以後、1927(昭2)年までの8年余の間に十数の医療事業兼営組合が生まれたが、長続きしなかつた。なぜならば町村単位の利用組合では財政力も弱く、小規模で設備も貧弱で、医師も定着しなかつたからである。

比較的市街地にある総合病院をセンターとして、農村診療所をサテライト・プランチとして配置し、さらに巡回診療班も含めて、言わば三位一体の布陣を敷かなければ無医村対策は成功しないという原則は、その後の厚生連病院に今もなお続いているのである。

この原則は、無医村克服の解消という観点から編み出されたものであると同時に、開業医制が営利を目的とすることから、実患者を減らすことを医療の究極目的にできず、保健予防に本気で取り組めなかつた限界、これを克服するために組合病院が予防保健活動を

組み込んだという意義も持っている。都市および農村を通じて自主的な医療利用組合運動が全国的に巻き起こされる、これに刺激されて社会立法である国民健康保険制度案が1934(昭9)年夏に発表される。「国民生活安定」が最重要の国策として登場し、国民健康保険法案を始めとし、未曾有の保険諸法案が提出され、国民健康法案のみは廃案となつたものの、その他いづれも通過をみるに至つた。これは、「上からの社会化」である。

第四期

戦時体制下の医療機関統制 (昭和13年〜20年)

産業組合は、国民健康保険制度導入にあたって医師会の強い反対を受けたものの国保代行機関になることに成功を収める。これには1935(昭10)年11月、賀川豊彦(社会大衆党顧問)、松岡駒吉(全日本労働総同盟会長)、杉山元治郎(全農国民組合委員長)らを筆頭に労働組合、農民組合、無産政党などが満場一致で「国民健康保険法案に対する我等の態度」を可決し、一大民衆運動を展開した背景がある。

しかしながら、1937(昭12)年7月に日中全面戦争が勃発してから農民の健康状態は著しく低下、戦時農業生産力の確保に努めなければならなくなつた。1938(昭13)年4月に「国家総動員法」を公布、この年の1月に厚生省と保険院が新設され、国民健康保険法案は保険院の最初の法案として提出、4月には無修正で通過、その目的は農村医療問題としてよりも「健兵健民」政策からの要請が強くなつた。

戦後第一期

農業協同組合として再出発、公的医療機関の指定

敗戦後、1948(昭23)年8月に農業会が解散され、事業の多くが農業協同組合法による組織に継承された。これが戦後の厚生連の出発

秋厚労・鹿角

住民の声で医師呼び続け10年

自身の足で 進んでいこう

7月23日(土)、秋田県鹿角市の鹿角市文化の杜交流館コモッセで「鹿角の医療と福祉を考える市民市民の会」による「第2回安心して暮らせる地域づくり集会」が行われました。

いこうか、これからの医療はどうなっていくのか。行政に任せるだけでなく、私たち自身が1歩、2歩と進んでいかなければなりません。そのような思いで集会を開催しました」と話されました。

10年の歩み

最初に、精神科の常勤医師を求める住民運動10

医師不足じわり解消...10年後、先進国平均に

2015年7月1日読売新聞 <http://news.yomiuri.co.jp/article/yomiuri/20150701-567-OYT1T50094.html>

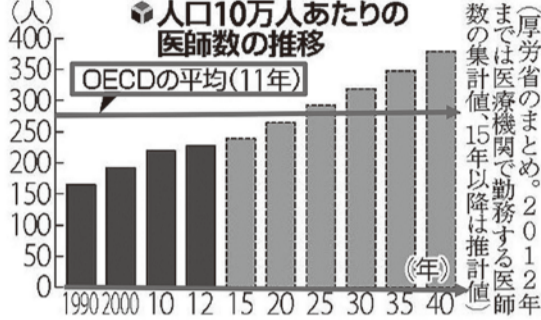


図1. 報道のウソ、OECDの医師増員なしが前提

医療労働者と住民が連帯を

続いて本田宏先生(元埼玉県済生会栗橋病院

長補佐・外科医)による「医師不足の原因と解決への道」をテーマとした講演がありました。最初に「医療はすべて政治」という言葉を紹介されました。その上で、「医師不足解消傾向」や、「医師不足の原因が偏在にある」などのメディアの報道は誤りであること、OECDのデータ(図1)を基に指摘し、医師不足は医療費を抑えたい政府の政策であり、国際的に見ると絶対的に医師不足である」と強調。そして「医療だけが良くなるというこ

言いたい劇場

小菅りや子



「医療はすべて政治」と話す本田先生



「医療はすべて政治」と話す本田先生

い」として自分たちの手で世の中を変えることが大切だと話されました。この二つの報告を受けた後、参加者を含めた会場全体で質疑応答話し合いました。今回の集会は10年間医師不足と向き合

「医師不足の原因と解決への道」をテーマとした講演がありました。最初に「医療はすべて政治」という言葉を紹介されました。その上で、「医師不足解消傾向」や、「医師不足の原因が偏在にある」などのメディアの報道は誤りであること、OECDのデータ(図1)を基に指摘し、医師不足は医療費を抑えたい政府の政策であり、国際的に見ると絶対的に医師不足である」と強調。そして「医療だけが良くなるというこ

「医師不足の原因と解決への道」をテーマとした講演がありました。最初に「医療はすべて政治」という言葉を紹介されました。その上で、「医師不足解消傾向」や、「医師不足の原因が偏在にある」などのメディアの報道は誤りであること、OECDのデータ(図1)を基に指摘し、医師不足は医療費を抑えたい政府の政策であり、国際的に見ると絶対的に医師不足である」と強調。そして「医療だけが良くなるというこ

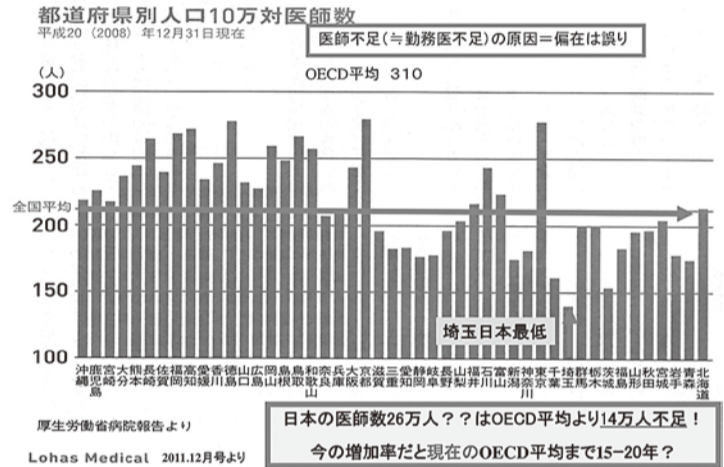


図2. 報道のウソ、絶対的医師不足が現実!

「医師不足の原因と解決への道」をテーマとした講演がありました。最初に「医療はすべて政治」という言葉を紹介されました。その上で、「医師不足解消傾向」や、「医師不足の原因が偏在にある」などのメディアの報道は誤りであること、OECDのデータ(図1)を基に指摘し、医師不足は医療費を抑えたい政府の政策であり、国際的に見ると絶対的に医師不足である」と強調。そして「医療だけが良くなるというこ

立が激化する。極めつけは、かつて医療利用組合運動の陣地となった東北三県が出した、「社会保険と医療施設の一元化、国民健康保険を中心とする医療施設の運営」案であった。しかし、政府はGHQの指令により原則として都道府県に移管することを決定したのである。

医療社会化運動は、実費診療所、産組の国保代行事業を経て医療費の低廉化と

いう面では目的の大半の実現を見たことは確かである。これは戦後の国民皆保険制にもつながっている。しかし、それは「医療費の支払い方の仕組み」の範囲であり、もうひとつの医療社会の目的である、医療をあく公平に普及するシステム、つまり医療提供体制については未完であったと言わざるを得ない。この状況は、現在も変わっていない。

原水禁世界大会の感想

● 広島現場を見て、直接被爆者のお話をうかがい

● 原爆の本当の怖さや大変な思いをされた方々の話を聞き、今後少しでも自分達ができる環境を目指して

● 平和と命の大切さを改めて実感しました。広島では若い人達に伝えられて

● 原爆をなくす、戦争をなくすことは日本だけでなく世界中の人々が平和に暮らせるのだから「平和」を考

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

● 分科会に参加し、被爆された方の生のお話を聞くことが出来ました。語り部の方も高齢となり、何十年か経過するなかで

頑張る仲間 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第112回は新潟と長野をお願いします。



新潟 高澤俊宏さん

新潟からは青年副委員長で診療放射線技師の高澤俊宏さんを紹介します。

青年委員会は働く仲間が、学習と交流を行いながら組合活動について学ぶことを目的として活動しています。会議や年に1回全支部の青年委員が集まる交流集会では青年ならではの職場の悩みや問題点を共有し、働きやすい職場にするためにできることを話し合っています。

そんな高澤さんは普段は放射線技師として長岡中央総合病院で勤務をしています。趣味は旅行やライブ参戦と行動派で仕事も遊びも全力投球がモットーです。これからも若い仲間が働きやすい職場を目指し、仕事に遊びに組合活動に期待をしています。

今回、長野県から紹介するのは、長厚労下伊那厚生病院支部で執行委員長をやっている新井洋一さんです。おやおや？なんだか様子が変わる、どうしたのでしょうか？

「こんにちは、下伊那厚生病院支部の新井洋一です。健康管理課で事務の仕事をやっています。この夏行われた厚生連体育大会（長野県の厚生連病院が集まるスポーツ大会）でアキレス腱を切っしまい、松葉杖の生活になってしまいました。怪我をしたことで、働く仲間、友人、家族のありがたみを改めて実感しました。長野県下伊那地区はこの時期、美味しい果物がいっぱいあります。是非、遊びに来てください。



長野 新井洋一さん

当選者（読者の声掲載者含む）10名様に図書（クオ）カードを差し上げます
答えと本紙の感想などを添えて下記あて先へお送りください。
当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。（6月号の答え…シガイセン）

- ヨコのカギ
- 秋桜と呼ばれる花
 - 贈り物のけんそん語
 - ……ラブユー
 - 9月22日は……の日
 - ラジカセは……カセットの略
 - 1……は100セント
 - 輸出の反対語
 - 花札の9月の花
 - スーパー・ウルトラ・アンパンの共通語
 - 理屈に合わないこと。……な要求
 - ……省略。……同文
 - 縁日などに並ぶ店
 - 足が疲れる仕事です
 - 映画やTVの野外撮影
 - 売り上げ低迷。不……
 - 金銭に関する運・不運

ザクロスワード

出題▶モロズミ勝

1	2	3	4	5	6
7	8	9	C		
10	A	11	12		
13		14	B	15	
16		17	18		
	19		20	E	21
22	23		D	24	25
26				27	

- 【問題】A～Eを並べてできる言葉は？
- タテのカギ
- ユーカリの葉が食料レベル。生活……が高
 - カッパ巻きもこの一種
 - 大韓民国の首都
 - 甘柿と……柿
 - 北国の反対語
 - 夏は冷や奴、冬は？
 - ……に金棒
 - ……から墓場までの社会保障スローガン
 - 英雄・坂田金時の幼名
 - 香りのよいキノコ
 - ……の道はヘビ
 - 心の働き。……不明
 - 安売法はやっぱり……
 - 地上の異変。天変……
 - 苦しい……の神だのみ

締め切り：2016年9月末日 消印有効
あて先：〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5-6F 全厚労 ニュース係

聞かせて・教えて!のコーナー

さて今年の夏も終わろうとしています、みなさんの「この夏の目標」は達成できたのでしょうか？

私は7月の健康診断で、「特定保健指導」にひっかかり、「無料ですから。任意ですから」と押し切れ、若い栄養士さんとの相談の上、6ヶ月間の「減量プログラム」を約束させられました。週2回の休肝日の他、「油ものを減らす」「一品を減らす」「野菜・肉・炭水化物をバランス良く」などです。1ヶ月後、3ヶ月後、半年後にチェックが入ることになります。

さて今回の「聞かせて・教えて!」は、皆さんも報道で見られた方も多いと思いますが、「天皇の『生前退位』」について、どう思いますか?」です。現在の天皇は憲法で、「国民の総意に基づく象徴としての存在」とされていますが、これからの改憲問題にも影響を及ぼさそうです。QRコードを読み取って、投稿サイトにアクセスして下さい。

質問フォームに、必要事項を記入して送信して下さい。氏名・住所・希望景品（図書カード又はクオカード）は必須事項です。投稿数に応じてポイントが貯まります。なお年齢・職種・連絡先などは、具体的に質問に関連して記載をお願いした場合のみ必須となります。

今回の「聞かせて・教えて!」

質問1 8月号で一番関心を覚えた記事(面)は?

- A=原水爆禁止世界大会 B=厚生連医療の歴史
- C=鹿角・住民のつどい D=この人・パズル

質問2 天皇の「生前退位」についてどう思いますか?

- A=認めるべき B=認められない
- C=どちらでも良い D=わからない

意見・要望

「生前退位」について、そう考える理由



投稿締切 投稿・パズルとも9月末まで

読者の声

6月号の女性集会の記事を読みました。上司が男性で、生理痛のつらさや育児の大変さの理解が得られずあきらめていたが、女性の権利として取得できる様な職場であつて欲しいと強く思いました。(富山)

男性になかなか理解してもらえない事ありますよね。ぜひ、女性集会などに男性も参加して頂き、少しでも理解を得てもらえれば働きやすい環境になるのでは??と思えます。(SN)

リフレッシュ休暇長期で取得できると嬉しいですが、人数が少ない部署はきびしいです。でもどうにか工夫をして5日間取得したいことと思っています。(北海道)

少数部署には少数部署ならではのメリットがあると思います。(OK)

性集会、生理休暇の参加者の感想など興味深く読みました。職場全体の雰囲気も良くて、女性の権利が守られ、働きやすい職場になったらと思います。勉強になった記事でした。(富山)

先月思いきって生理休暇をとりました。やはり、なかなか取りづらいこともあり、大切な女性の権利、使っていきたいですね。(KT)

各県この人のコーナーがいつも楽しみで、今回はクロスワードの解答を初めて送ります。図書カードが当たったら、1歳になる息子に絵本を買ってあげたいと思います。「シガイセン」は自分にも子どもの肌にも大敵なので、しっかり紫外線対策を今年の夏は頑張りたいです!!(長野)

紫外線は気になりますね。忘れがちですが、紫外線は目にも強い刺激になります。私は紫外線対策として、また、オシヤレとしてもサンングラスが手放せません。(OK)

今年選挙に行かせて頂きました。選挙に行かないと変わるものも変わらないと思います。(北海道)

今年から18歳にも投票権がスタートしました。若者も含め皆さんの投票行動によって世の中を変えるチカラになると思います。(NK)

憲法について生活の中で考えることは少ないけれど、それを身近なところ・職場で考えていきたいと思う。「選挙に行こう!」は参考になりました。(静岡)

近頃はいろいろな場面で見えさせられることが多いですね。1票の力を信じてこれからも投票に必ず行きましょう!(KH)